

## 生活科学習指導案

日 時 平成 24 年 10 月 4 日 (木)

児 童 ○○小学校 2 年○組 男子 11 名、女子 11 名

授業者 教 諭 ○○ ○○

場 所 ○○小学校体育館

- 1 単元名 「作って ためして」  
内 容 (6) 自然や物を使った遊び

### 2 単元について

#### (1) 単元のねらい

本単元では、学習指導要領の「内容 (6) 自然や物を使った遊び」をもとに単元を構成し、内容構成の具体的な視点としては、「ケ 遊びの工夫」「イ 身近な人々との接し方」を位置づけて単元を構成している。

単元構成に当たっては、身近にあるものを学習対象とし、動くおもちゃを友達と試したり、工夫したりしながら作ることを通して、動くおもちゃの面白さや不思議さに気付き、学級の友達や一年生、保育所の友達と楽しく遊べるようになることを期待している。また、生活科では中学年以降の理科の学習「科学的な見方・考え方の基礎」を養うことが求められているので、風やゴム、空気の力等の動力がおもちゃに活用できることに気付き、よりより動きをさせるために自分のおもちゃと友達のおもちゃを比較したり、何度も試行錯誤したりすることで活動を広げていけることをねらいとしている。

#### (2) 児童の実態

《 省 略 》

#### (3) 指導観

単元の前半では、個々の活動が中心となり、作り上げることだけに没頭する姿が予想されるが、活動が進むにつれて、「もっと高く飛ばしたい」「もっと速く走らせたい」等、同じ思いや願いをもった児童同士がグループとなり、話し合ったり、競争したりすることで動力への気付きが高まっていくと考える。そこで、今回は様々な動力を幅広く捉え、作りたいおもちゃを自由に作ることができるように単元を構成する。また、保育所の友達や一年生に自分の作ったおもちゃを紹介する場を設定することで、見通しをもった活動ができると考える。また、交流を通して、心を通わせたりして関わる楽しさが実感として分かり、身の回りの多様な人々と進んでコミュニケーションを図ることができることを目指している。

### 3 単元の目標

身近にあるものを使って動くおもちゃを作り、友達と試したり、工夫して作ったりすることを通して、動くおもちゃのおもしろさや不思議さに気づき、友達と一緒に遊ぶことができるようにする。

### 4 評価規準

生活への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や自分についての 気づき
①身近な自然を利用したり身近にあるものを使ったりなどして、動くおもちゃを作ろうとしている。 ②みんなで遊びを楽しもうとしている。	①身近な物で動くおもちゃを作るために、考えたり工夫したりしている。 ②作った物で楽しく遊ぶ方法を、考えている。 ③楽しかった事や工夫したことなど、自分なりの方法で表現している。	①おもちゃが動く仕組みに気付いている。 ②自分たちでも、協力したり工夫したりすると遊びや生活を楽しめることに気付いている。 ③自分や友達の良さに気付いている。

5 単元の指導計画

時間	○単位時間の目標	○主な学習活動	■評価規準 □評価方法
【導入】 1 2 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月に保育所の友達を招待し、1,2年生合同で「お店やさんごっこ」を行うことを知り、今後の活動の見通しを持つ事ができる。</li> <li>・自分の作りたいおもちゃを決定し、簡単な設計図を書くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が制作した見本のおもちゃで遊んだり、本から選んだりして作りたいおもちゃを考える。</li> <li>・自分が作りたいおもちゃの簡単な設計図を書き、おもちゃ作りに必要な材料を考え、用意する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■身近な自然を利用したり身近にあるものを使ったりなどして、動くおもちゃを作ろうとしている。【関—①】</li> <li>□行動観察、発言・対話 ワークシート</li> </ul>
【展開①】 4 5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近にあるものを使って、自分で動くおもちゃをつくって遊ぼうとすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動くおもちゃを作る。</li> <li>・自分が作ったおもちゃで遊んだり、友達と試したり遊んだりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■身近な物で動くおもちゃを作るために、考えたり工夫したりしている。【思—①】</li> <li>□行動観察、発言・対話</li> </ul>
【展開②】 8 9 10 11 12 《本時9》	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもちゃがもっとよく動くための工夫を考えながら、手直しをすることができる。</li> <li>・遊びやルールを工夫しながら、友達と一緒に楽しく遊ぶことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が作ったおもちゃで遊んだり、友達と試したり遊んだりしながら手直しをする。</li> <li>・もっとよく動くように工夫する。</li> <li>・友達が作ったおもちゃで遊んだり、互いの遊びを楽しく交流したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■みんなで遊びを楽しもうとしている。【関—②】</li> <li>■作った物で楽しく遊ぶ方法を、考えている。【思—②】</li> <li>■おもちゃが動く仕組みに気付いている。【気—①】</li> <li>□行動観察、発言・対話</li> </ul>
【終末】 13 14 15 16 17 18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「お店やさんごっこ」で、自分がつくったおもちゃの動力となるものや特徴、遊び方を説明し、楽しむことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「お店屋さんごっこ」の準備をする。</li> <li>・保育所の友達に遊び方の説明をしたり、一緒に遊んだりする。</li> <li>・「お店やさんごっこ」を振り返り、自分や友達の工夫したところや良さを絵や文章で表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■楽しかった事や工夫したことなど、自分なりの方法で表現している。【思—③】</li> <li>■自分たちでも、協力したり工夫したりすると遊びや生活を楽しめることに気付いている。【気—②】</li> <li>■自分や友達の良さに気付いている。【気—③】</li> <li>□行動観察、発言・対話 ワークシート</li> </ul>

6 本時案 (9/18)

- 1) 目標 おもちゃがもっとよく動くための工夫を考えながら、手直しをすることができる。
- 2) 評価規準
- ・みんなで遊びを楽しもうとしている。【関一②】
  - ・身近な物で動くおもちゃを作るために、考えたり工夫したりしている。【思一①】
  - ・おもちゃが動く仕組みに気付いている。【気一①】

過程	○主な学習活動 ・予想される児童の発言等	◇教師の主な働きかけ	■評価規準 □評価方法 ▲努力を要すると判断される児童への手立て
導入	<p>○前時までの学習活動を振り返り、本時の学習の確認をする。</p> <p>・ぼくは、ゴムを使ったおもちゃを作ったよ。</p> <p>・私は思っていた通りにできたよ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">                     もっとよく動くために考えながら作ろう。                 </div> <p>○活動のきまりを確認する。</p>	<p>◇教師の制作した見本を見せ、同じようにつくってみたいという思いを膨らませる。</p> <p>◇用具の使い方や安全に活動するよう促す。</p>	
展開	<p>○自分の作ったおもちゃがよりよく動くために工夫しながら、手直しをする。</p> <p>・ゴムの数を増やしてみようかな。</p> <p>・切り込みの深さを変えてみたら、どうなるかな。</p> <p>・おもりの形を変えたら速く走りそうだな。</p>	<p>◇一人ひとりの思いや願いを的確に見取り、おもちゃ作りのヒントや視点を伝える。</p> <p>◇速く作業を終えた児童には、繰り返し遊びを試したり、友達との交流をしたりするよう促す。</p> <p>◇作業の遅い児童には、友達や教師との交流を通し、ヒントを見つけられるよう場を設定する。</p> <p>◇手直しのポイントが的確だった児童を取り上げ、成功した喜びを共有したり、頑張りを実感したりできるようにする。</p>	<p>■みんなで遊びを楽しもうとしている。 【関一②】</p> <p>■身近な物で動くおもちゃを作るために、考えたり工夫したりしている。 【思一①】</p> <p>□行動観察、発言・対話</p> <p>▲他の児童が作った物を見せたり、ヒントを与えたりしながら気付きを促す。</p>
終末	<p>○工夫したところや前時までの物と比べて良くなったところを交流し、次時への意欲と課題を持つ。</p> <p>・今度は、ゴムの数を変えて挑戦してみよう。</p> <p>・なるほど。真似したいな。</p>	<p>◇意欲が次時へとつながるよう、活動の見直しを持てるよう働きかける。</p>	<p>■おもちゃが動く仕組みに気付いている。 【気一①】</p> <p>□発言・対話</p>